



2021年
8月21日
発行

日本山岳会

「高尾の森」通信



— 小下沢風景林の森づくり活動 —

会員数：166名
(2021.7月末現在)

6月に総会も終え、7月定例作業は新作業班体制が始動。
各班リーダーを紹介します。

創立
20周年

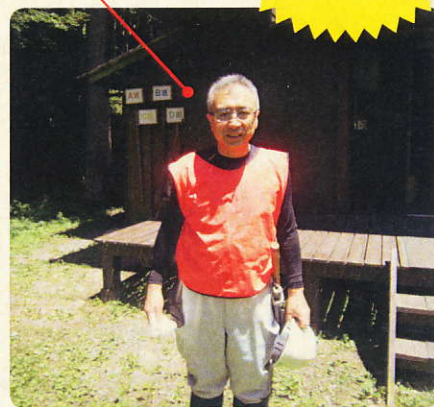
仁藤事務局長 吉川代表



A班 大塚リーダー



B班 小野リーダー



C班 本山リーダー



D班 小木曽リーダー



機械班 寺田リーダー



オケラ

古名蓑(ウケラ)と言っていたが
万葉の時代にウケラからオケラに転じ、
やや乾いた草原や林のふちで見かけられたが今は稀。
(横川信由)

オケラ

<http://JACtakao.net>

高尾山との関わりと 回想の中で

東京神奈川森林管理署長
伊藤 博通

高尾 599 ミュージアム
Photo/Taiji Yamazaki



今の職に就いてから早くも4ヶ月が経った。ここ数年他省庁等勤務が多かったのではばらくぶりの国有林勤務である。20年程前に当時の東京分局で高尾山に関する業務にも携わっていたが、その頃と比べるとこの辺りの様子が変わってきているところもある。そうした点などについて書き記してみたい。

高尾山登山者の多くに利用されている玄関口といえば、まず京王電鉄の高尾山口駅が挙げられる。多摩御陵への参拝客輸送を目的に建設、昭和20年に休止となった京王御陵線の一部を活用し、昭和42年北野－高尾山口間の開通とともに開業した。平成27年4月に完成した駅のリニューアル工事により、素朴な終着駅から周囲の景観と調和した高尾山の玄関口としてふさわしい駅へと生まれ変わった。駅舎は、隈研吾氏の設計による高尾山のスギ並木、薬王院をイメージしたデザインで杉材を多用したものとなっている。

高尾山口駅が電車での玄関口ならば、高尾山インターは自動車での玄関口である。平成24年3月首都圏中央連絡自動車道（圏央道）の八王子JCTから延伸開通し供用が開始された。静かな山間の地は、何本もの道路橋とトンネルが走り抜ける場と様変わりした。インターの名称は正式決定時に「高尾山インター」となり、高尾山の玄関口であるイメージが強調された。このインターの開通によって各方面からの高尾山へのアクセスは容易になった。

高尾山口駅から甲州街道を大垂水峠の方へいった高尾山参道の南側約6kmの敷地には、以前、自然科学博物館とユースホステルがあったが、こ

こを高尾山の拠点施設として整備していくこととなった。ユースホステル跡地には高尾駅近くにあった高尾森林センター（現「高尾森林ふれあい推進センター」）が平成19年4月に移転し、事務室のほか展示室、クラフト体験室も併設した木造二階建ての建物が先行して建築された。また、自然科学博物館跡地には、八王子市が博物館機能を継承した高尾山の情報発信拠点として“TAKAO599MUSEUM”を整備し、平成27年8月にオープンした。これらの施設が同じ敷地に整備されたことは、森林・林業への理解も含む高尾山の魅力を向上していく上で良かったと思う。

奈良時代に開山され1300年以上にもわたる歴史のある高尾山は、北条氏による竹木伐採の禁止や徳川幕府にも引き継がれた保護政策、スギの植林等により森林は守られてきたが、これまでも震災や火災などの自然災害による森林被害、戦時中、戦後の木材需要の高まりに応える伐採などもあり、守り続けていくことは苦労が絶えなかっただろう。最近では台風・大雨による被害、ナラ枯れ、シカの生息域拡大による影響も懸念される。

丘陵と山地の周縁に接し、冷温帯と暖温帯の接合点に位置している高尾山は、市街地の近くにあるながらも多様な動植物が生育・生息し、豊かな森林が形成され、学術的な価値も高い。一方で、古くから、信仰の場、行楽地として多くの人々に利用され、自然と利用の調和が図られてきている。

今後、貴重な自然の宝庫である高尾山の森林の多様性・健全性をさらに高めていく、自然的価値を高めていくために、関係者や関係団体等がそれぞれの立場から、また、連携を深めながら取り組み、後世に継承していくことが求められている。

2021年 総会報告

6月19日(土) ZOOMによるweb会議で2021年総会が開催されましたので報告いたします。議事録はホームページ会員専用ページに掲載しています。

1. 成立要件 会員総数 165 名

必要定足数は 53 名以上 (1/3)

総会参加人数 16 名、議決権行使人数 99 名、

委任状 16 名 総数 131 名で成立。

2. 議長・副議長の選出

小野幹事と大塚(哲)幹事が選任される。

3. 議事録署名人の選出

日比野監査役及び守永さん承諾される。

4. 議事

(1) 第一号議案 「2020 年度事業報告」

(2) 第二号議案 「2020 年度会計報告」

賛成多数で承認される。

(3) 監査報告(日比野監査役)

(4) 第三号議案 「幹事の選任」

吉川代表より大塚(哲)幹事及び本山幹事の

再任が提案され賛成多数で承認される。

5. 報告事項

(1) 2021 年度事業計画 代表及び大森副代表、
仁藤事務局長より説明される。

(2) 2021 年度予算 湯川幹事より説明があった。
そして今後の会計は湯川幹事から安藤幸彦会
員にバトンタッチする旨報告があった。

【意見】

◎高年齢化、コロナ過により活動が低迷している。

具体的な計画を提示されたい。

◎国、都のコロナ感染対策に盲従せず、非常事態宣
言下でも会の活動を継続できる方策の検討に注力
したらどうか？

日本山岳会 高尾の森づくりの会

創立20周年を祝う会のお知らせ

代表 吉川正幸

15 周年記念式典
(2015.10.3)



2001 年1月に創設された我が会は、本年で 20 周年を迎えることになりました。そこで、会の 20 年の歩みを振り返り、20 年を迎えられたことを祝い、さらに新たな会の発展を願い、20 周年を記念する集まりの会を下記のように企画しています。

我が会は、10 周年目、15 周年目には記念の会を催し盛大に祝いました。しかし、この 2 年間は、新型コロナウイルスの蔓延のために、会の活動も大きな制約を受けていました。20 周年を祝う会は、簡素でありながらも、感染症にも打ち勝った記念の会にもしたいものです。

記念の会の実行委員長には、松川征夫副代表にお願いしました。さらに実行委員になられる会員を募集しています。また、この記念の会に合わせて、記念誌「20 年の歩み」の発行の準備や、物づくり班による記念品の製作も着々と進んでいます。記念の会では、20 周年記念誌と木工製品の記念品も配布されることになります。

秋になりましたら、参加のためのご案内を差し上げます。会費制(5 千円前後)となりますが、是非、ご参加を予定していただきますよう、お願い申し上げます。

予定日時 ◎ 2021 年 11 月 27 日(土曜日) 午後 1 時から
(場合によっては、延期することもあります。)

予定会場 ◎京王プラザホテル八王子(JR 八王子駅近く)

参加予定者◎会員、法人会員の皆様、関係者の皆様

新入会員紹介

松村憲一です



新会員としてのご挨拶

八王子市に住む 1955 年生まれ 66 歳の松村と申します。

「高尾の森づくりの会」C 班に 6 月 18 日に入会させて頂きました。

C 班リーダーの本山さんとの縁で入会する事になり、ドキドキハラハラしております。

山の事、色々と教えて頂いて覚えようと思っておりますが、体力には自信が有りますが、脳みそが筋肉でできている為、ヒノキとスギの区別

がつかない程のど素人です。自然あふれる高尾の山を 20 年に亘って広葉樹を増やして多様な森林づくりに貢献されている皆様に少しでもお役に立ちたいと思っております。

会に入会するに当たり、初心者研修を受け、「もやい結び」を経験するにもあたふた、前途多難ではありますが、気長にコツコツと牛歩の如く歩んで参りたいと思っております。宜しくお願い致します。

5月活動日記

5月も緊急事態宣言発出のため定例作業、都府林、三宅島プロジェクト等が中止、慈恵学園森林体験実習は延期となった。

今年度から新たな五か年計画がスタートする。その下準備でフィールド担当が中心になり小下沢エリア 218 林班の標準地調査等に取り組んだ。また上柚木公園作業も実施された。



218 ろ心沢最上部



標準地調査



小下沢林道

エビネ



218 ろ心沢

もくじ

伊藤署長ご挨拶	02
2021 年総会報告	03
20 周年記念行事について	03
新会員紹介	03
活動日記	04
新旧作業リーダーからひと言	07
20 周年記念寄稿	09
幹事会報告	11
黒木さんを偲んで	11
一丁平作業	11
事務局からのお知らせ	12

6月活動日記



発電機修理へ

今月も緊急事態宣言が延長されやむなく定例作業は中止となったが、一丁平、上柚木公園作業、個人倉庫の整理整頓、小屋の発電機修理などに取り組んだ。

上柚木公園 作業前



綺麗になった斜面



廃棄物処理車



綺麗になった個人倉庫



一丁平作業
京王さんからも3名参加

7月活動日記

天候が怪しい中、定例作業を久しぶりに行いました。もちろんガイドラインを設けて。その他上柚木公園や各種研修会、20周年記念品（箸・額など）の準備にも取り組みました。

上柚木公園

後列右から2人目が田中スポーツ課長
その左側南大沢学園生徒佐野さん



刈払機研修会（17日）参加者



ものづくり班 ヒノキ額づくり



新発電機



新A・B班 218林班下見

幅を広げた作業に 期待します

㊦ 機械班リーダー
白沢紀明

この6月をもって長きに渡る機械班のリーダーを退くこととなり、大きな事故も無く終えることが出来たことは、機械班メンバーの協力や会の支援による事大変感謝しております。有難う御座いました。

機械班は前身のフリー班から2016年6月に正式に発足し、会の定例作業班とし活動を開始しました。我々の班は一般作業班と安全面を考え作業エリアが分かれ離れた場所で作業をしています。従って、他のメンバーとの交流が少なく、時には終わりのミーティングに間に合わずベースに誰もいない中、機械班だけで機械整備をして終了なんて時も何回かありました。

この1年はコロナ禍で一般作業班の活動もままならない中、板当地区の間伐応援が会から依頼され、有志作業や臨時作業を行うことで協力することが出来大変うれしく思いました。結果として板当では作業員総数45人・間伐本数合計563本の処理ができ一般作業班への貢献もできたのではないのでしょうか。この春には新しい機械も導入し色々幅を広げて作業ができるのではないかと思います。

7月からは新しいリーダーの元今までの活動内容を踏襲しつつ、新たな班活動となるよう期待しています。

作業班リーダー を終えて

㊦ D班リーダー
守永日出夫

新班編成後の最初の定例作業は、ザリクボ「上の横道」付近が作業場で、間伐対象の選木と、道作りだった。午前の作業を終えた昼食時、作業場所について、「こんな所まで上がれば、板当へ行くのと同じだ。もう少しラクがしたかったのに。」と不満の声が聞こえてきた。みんな元気だが、多くは後期高齢者で、80歳を超えた方もおられる。その後は作業の場所と時間には気を付けることを肝に銘じた。

台風被害と新型コロナで、活動が制限された2年間だったが、定例作業に毎回多くの人の参加があったのはうれしかった。林道、作業道、登山道の補修など植栽地管理の裏方的作業が中心だったが、午前中でエネルギーを使い果すほど熱心に活動して頂いた。その結果、午後の作業は軽め、ベースへ戻るのが早まるのは仕方がない。体験研修の講師、動物カメラ管理などにも尽力いただいた。メンバー皆さんの協力で、大きなけがや事故もなく楽しく活動できたことに感謝します。

60歳の坂を無事、 越えられました

㊦ B班リーダー
山崎喜春

サブリーダーを2期4年間経験。最初の任期が終わる時、当時のリーダーから、リーダーの打診がありました。その時はお断りしましたが、次の任期の後も再度、依頼があり、今度は断れない、と腹をくくり、引き受けることにしました。入念な引き継ぎをしていただき、リーダーの役割が始まりました。

定例作業日の一日が大きな事故なく過ごせるか。度胸も愛嬌ありません。心配は尽きませんでしたが、2年間を振り返ると、参加者のみなさまはそれぞれに安全管理をしていただいていた、当会の活動の積み重ねが、立ち居振る舞いを磨いているのだと実感しました。6月、新班編成のメールを班内にお送りしたところ、ふだん定例作業に参加されない方からもたくさん近況報告をいただきました。毎月、定例作業の案内メールをしておりましたが、つながりを感じさせていただきました。ありがとうございました。

現在、61歳。公私ともに、いろいろあった2年間でしたが、みなさまのおかげで、無事、60歳の坂を越えることができました。「60歳の坂？若い者が何言っている！」。叱咤激励の声が聞こえてきそうですが……。

A班リーダーとして



新 A班リーダー
大塚哲生

旧A班の皆さん。この2年間は、台風被害による小下沢林道の復旧や緊急事態宣言発出期間を避けての板当作業エリア間伐仕上げと、これまでにない環境下での作業となりました。その間、皆様の温かいお言葉やご支援によりA班を含め当会の活動を続けられた事を、心より感謝申し上げます。

新A班の皆さん。新たな班編成により、今後5年間の新たな作業対象エリアに対する作業が始まります。新作業エリアの地形に馴染むと共に道づくりや間伐対象木の選定等から始めたいと思います。これからの2年間、ご支援の程、宜しくお願いします。

11月頃には会員の皆様のコロナワクチンが終了し、来年3月頃には小下沢林道の復旧完了が見込まれます。その先は、豊かな日常と会員の皆様との楽しい交流の機会が増えと予想されます。今後とも定例作業日には、高尾の豊かな自然環境の中で爽やかで楽しい一日を共に過ごしましょう。

一人一人の
直接の行動



新 B 班リーダー
小野 正

近年、宇宙空間に浮かぶ人工衛星から地球を観察する技術が急速に進展しており、この衛星データがあらゆる場面で活用されています。衛星データは、観測する波長により、地球上の鉱物の判別、植物の判別、さらに温度も観測することができます。こうした特性を利用して、農業では稲の育成状況の監視に利用することは常識になりつつあり、さらにブドウやその他露地栽培物の監視にも多く活用されています。森林分野でも、樹種の判別、密度、生育状況、さらに複数のデータの利用により森林の斜度・傾度も判別することが可能です。

このように、科学技術の進歩はこれまで見えなかった多くのものを可視化することで、地球温暖化の進展状況などを明らかにしてくれます。しかしながら、宇宙関連技術がいくら進歩し、地球の様子をつぶさに見ることができるようになって、それだけで温暖化の進展を食い止めることはできません。一人一人の直接の行動が、最も大事です。高尾の森づくりの会のメンバー一人一人が作業に参加することで、初めて豊かな森が維持できるのです。

植樹した樹木が
より一層
伸びやかに



新 D 班リーダー
小木曾裕子

この度、D 班（モニタリング調査班）のリーダーになりました小木曾です。新 D 班は、2001 年から植樹してきた広葉樹の生育を調査し、手入れすることを目的としたモニタリング調査班です。広葉樹は生育過程で自然淘汰されていくとのことですが、ユニット単位で植樹した広葉樹が 20 年を迎え、必ずしもそうではなく育っているケースもあることが分かってきました。そこで、定例作業班として再調査し、手入れすることにより植樹した樹木がより一層伸びやかに生育することを目指します。

植樹地のモニタリングは龍さん、白井さんや千谷さんが長年続けられ、詳細なデータをまとめて報告されています。また 2016 年には、補助作業として白井さん、大森さんが中心となりモニタリングを実施されました。今回の新 D 班では、別途、継続的に龍さんが実施されていたモニタリングを、定例作業班として継承して進めて参ります。現在は生態調査班のメンバーが中心の少数精鋭の班ですが、興味ある方の参加をお待ちしています。

楽で面白ければ！



新 C 班リーダー
本山幸次

母親の影響で 3 才からクラシックギターを習い、日本代表として出場した国際コンクールで優勝した。のであれば、今活躍中のオリンピック選手のように幼少期の映像も残っていたことでしょう。

偶々、群馬の Water Drinking Farmer（その時代：水飲み百姓）の 9 人兄弟の末っ子だった環境は、強い本人の意志もあって全く別の人生を歩むこととなった。あれから 70 年、当会「新 C 班リーダー」として今後の活躍が期待されている。

上記ナレーターの言う通りですが、牛の餌集めの為に鎌で土手草刈りの経験から「国際草刈りコンクール」でもあればメダルのレベルです。

入会の 6 年程前に、「リーダーの〇永さんが良くて参加している」という〇川さんの言葉が思い出されます。

「みんなに会うことが 1 番の楽しみ」こんな集まりが理想ですね。

1. どっちが正しい？どっちでもいいですよ！楽で面白ければ。

2. しっかりした靴、ヘルメット着用は必須…ゴム長靴・ヘルメットは 2 年前本山が（頭蓋骨折事故）経験済です。どうかくれぐれもお気を付けて、よろしく願いいたします。

最大の目標は
「事故ゼロ」



新 機械班リーダー
寺田 誠

今期から機械作業班リーダーを担当する寺田と申します。これまで道具班リーダーを担当しておりました。

この班は前リーダーの白沢さんが創った班で、私は二人目のリーダーとなります。メンバーのほとんどが道具班と兼務している「白沢アニキとゆかいな仲間たち」です。機械作業班はその名前が示す通りチェーンソー・刈払い機を積極的に活用して行ってきましたが、この 2、3 年は台風等で山が荒れ、沢に流れ込んだ大量の倒木を人力で引き上げたりしてました。そこで本年度は新戦力・林内作業車「やまびこ」を導入しました。これを駆使して作業効率のアップを図るとともに、人力ではできなかったことにもどんどんチャレンジしていきたいと思っています。もちろん安全第一、最大の目標は「事故ゼロ」であることは変わりません。では任期の間よろしく願います。

尚、機械作業班ではゆかいな仲間を絶賛募集中です。昭和気質の怒号・各種ハラスメントに抗体のある方、お待ちしております（大丈夫、半分は冗談です）。

私と高尾の森づくりの会

今月号も20周年記念誌掲載の「個人エッセイ」4名の方をご紹介します

創立20周年記念寄稿 1

大塚廣康 最初の植樹祭の思い出



入会のきっかけはJAC92会（日本山岳会1992年入会者の同期会）の行事の一環として参加しました。JAC92会の10周年を迎えるに当たって「記念に残る事をやろう」と云うことで、記念植樹をする事になりました。当時のリーダーが「高尾の森づくりの会」の事を知り河西代表や事務局と交渉を重ねて02B区を任せてもらう事になりました。

最初の作業日が2002年2月9日です。この日は雑木雑草の除伐でした。それらを一か所に集める為の巻き落しを行いかなりの植栽地を確保しました。どの作業も初めての試みでした。慣れない仕事でしかも急斜面での作業で冬なのに汗だくになりました。その後の作業日毎に一般の人でも歩ける様作業道作りを進めました。その工程の中で事故が起きてしまいました。掛矢で杭を打ち込む作業時、杭を支えていた人の手を誤って叩いてしまいました。直ぐに病院に行き手当をして貰いました。幸い骨には異常が無く打撲による腫れだけと診断でした。これが「高尾の森づくりの会」の第一号の災害事例となりました。それ以降は安全第一を遵守して作業を行いました。

そうして4月14日「高尾の森づくりの会」としては第2回目、我々JAC92会としては初めての植樹祭を迎える事が出来ました。当日は会のメンバーと一般からの応募者で約300名が参加して大賑わいでした。我らのグループでは山桜25本、山榛の木25本、山紅葉50本、樺25本、沢胡桃25本合計150本を植付けしみんな大満足でした。最後にJAC92会結成10周年の記念プレートを建てることにしました。事前に日本山岳会と林野庁に了解を頂き、「さりげなく」のコンセプトであり目立たない様02B地区にたてました。これは最近まで健在でしたが2019年の秋の台風で崖崩れが起き何処かと流されてしまいました。これは大自然の中に人工物など持込むなどのメッセージなのかとも思いました。それでも植樹した木々は大きく育ち、直径20cm位になり春には山桜が満開になります。本当に楽しい思い出です。それ以来病み付きになり「高尾の森づくりの会」に通っています。今後も体が続く限り参加したいと思います。

創立20周年記念寄稿 2

横川信由 「2本のイヌブナ！」

中年を過ぎたころ奥日光を散策していたところ、知り合った人に誘われ光徳小屋に立ち寄った。その際高尾の森づくりの会の発足を聞き2002年に入会しました。早速宮崎班道づくりへ参加しました。しばらくして初年度植栽地より、上の横道途中の修復作業に取り組んだところ、崩れた斜面にへばりつく2本の「イヌブナ」を発見、この高尾周辺ではなかなか見られなかった樹木のため心に止めた。修復後通うたびに心を通わせております。

その間、京王親子森林体験スクールの行事もあり金子さん（通称：マープル）の指導の下、ザリクボ右岸を登った親子エリアでヤマザクラを植えた。当時小学生の子が中学卒業後親と一緒に訪れてきてくれた。篠竹の赤い目印が残っていたのですぐ分かった。うれしそうな顔、残念ながらサクラの花は見られなかったが森の薄緑を揺らすアオバトの声を聴きつつ名残惜しんで森を下った。

私は遅れて林道を歩いていると足の前に小走りに走っては止まり、頭をもたげまた走り出す虫がいた。やがて見えなくなったが、道教えと言われる「ハンミョウ（イラスト）」であった。



私と高尾の 森づくりの会 鮫島弘吉郎



私が初めて植栽地を訪れたのは 2002 年の植樹祭の時であった。
今考えると、会創立 2 年目であり、ホームページはない時代、会の存在は、まだ知られていない時期であったと思うが、大勢の人が植樹祭に参加していた。数班に分かれ、植栽地に案内された。我々は大ケヤキの前の沢 02F 植栽地で、砂利だらけの場所であった。
テスト的に「カミネッコン」（正しい名前か？はっきり覚えていない）と言われる、紙と肥料を混ぜた材料で作られた植木鉢状のものに苗を植え、砂利や岩の上に置くとやがて根が延び、根付くとの事。次の年は会員として、同じ沢の下部 03B も「カミネッコン」を使用した。場所の関係もあると思うが、根付いていないので、テストは成功しなかったようだ。その後「カミネッコン」の話は聞かなくなった。記憶は定かではないが、帰路は逆沢滝？の横を通る仮設コースを案内された。所々に会員が案内で立っており急なところにはロープが張っており、安全に散策を楽しんだ。入会すれば楽しそうだが、体力的に 2～3 年しか続かないだろうと、考えると入会にためらいがあったが、結局は入会した。入会から 19 年、よく続いたものだ。当時活動されていた方のうち現在活動を続けている方が数人になり、寂しさを感じる。
日増しに体力、気力の衰えを感じるが、周りの皆様へ迷惑をあまりかけないように、楽しんで活動を続けて行きたいと思う今日この頃である。

私は日本山岳会の中にある「山の自然学研究会」（略称：やま学研）のメンバーであり、山の自然保護活動にかかわる一環として「高尾の森づくりの会」にも入会し、2003 年から高尾の森づくりの会が初年度（2001 年）に開催した第一回の植樹を行った場所の植栽調査を 2～3 ヶ月毎に 4～8 名で続けてまいりました。第一回の植樹地は会のベース小屋から景信山（標高 727m）へ向かって約 800m 登ったところにあります。ここは東北に向かった下り斜面で、この中に 10m 四方のコドラード（植生調査などに用いられる一定の大きさの方形の区画）を三ヶ所設けて調査を行ってきました。第一回の植樹祭においては 1,000 本、23 種の広葉樹を植樹したが、我々の設けたコドラードにはブナ、コナラ、カツラ、イタヤカエデ、ハウノキ、ツガ、ヤマザクラの 8 種類に加えて既存のヒノキ、クワ、フサザクラ、ヌルデ、キブシ、アブラチャン、タラノキ、イヌガヤ等の樹があり夫々の成長を観察、記録してきました。植樹したものの樹高は、初め 8～32cm であったが成長の早いカツラは 5 年間で 10m を超え、簡単には測れない高さにまで成長しております。枝葉の広がりもカツラは 4m 四方にもなって他の樹木の成長を妨げる程になっています。樹木に加えて臨床の草本も調べていますが結構多種類あり、各コドラードにそれぞれ 7～80 種類もの草本が繁殖しています。

一番上のコドラードまでがジグザクの小道になっており、ある時、登る途中でスズメ蜂の巣に出会い、攻撃を受けて腕を刺されるという痛い目にあったことがあります。2007 年発行の「高尾の森通信」及び「やま学研」の研究報告書に調査観測報告を掲載し、その後も調査観測を続けてきましたが、昨年新型コロナウイルス感染症による非常事態宣言以来、現在調査観測をストップしています。私は 2015 年に「モノづくり班」にも参加し、電動工具などを使って伐ってきた間伐材を加工して木工作品を作ることを楽しんでます。メンバーの中にはとっても器用で、アイデアに富んだ素晴らしい作品を作る方が大勢おられ、箸、スプーン、ペン立て等の小物から折り畳み椅子、・テーブルの大物作品までを毎年日比谷公園や法人企業のお祭りに展示即売もしており会の良い P R に役立っていると思います。

高尾の森づくりの会に 参加して 関清



幹事会報告

詳細はホームページ会員専用ページに掲載しています。

【5月】

議案 1.

総会の開催方法について

議案 2.

2020 年度の事業報告及び会計報告

議案 3.

総会議案とする 2 幹事の選任議案

議案 4.

2021 年度の事業計画及び予算

協議事項 1 今後の予定について

協議事項 2 7 月以降の班編成案

【6月】

議案 1.

新作業班名簿案（体制）について

議案 2. 総会議長について

協議事項 1.

本年後半スケジュールについて

【7月】

協議事項 1.

秋の植樹祭と紅葉鑑賞会の実施について

協議事項 2.

7 月からの定例作業について

報告事項 1.

東京都からの自粛要請と木下沢林道について

報告事項 2.

慈恵学園森林体験教室など

黒木
さん
を
偲
ん
で

「ありがとう」を 伝えたい

伊東美穂子



創立 10 周年記念式典での黒木さん（左）

黒木さん、貴方を偲んで高尾の空を見上げると、黒木さんの笑顔の隣に次々と浮かんでくるのは懐かしい方々の優しい笑顔……。もう寂しくはないですね。

何年前だったでしょう、草津スキーで黒木さんとお話をするきっかけとなった事件が起きました。あの日、黒木さんは滑降中アイスバーンでコントロール不能となり、若い女性との衝突を避け転倒！ ろっ骨を痛めてしまいました。急遽手当のため宿へ戻り、スキー靴を脱ごうとしても痛みで力が入らない様子でしたので、手をお貸ししたのですが、そうさせていただくための説得にたいへん時間がかかったことを思い出します。

偲び浮かぶ笑顔の方々と共に会の発展に尽力されたのは言うまでもありませんが、苦言も臆することなく呈してくださる方でした。そんな厳しい一面もお持ちでしたが、高尾に来る子供たちにはとてもとても優しい心遣いで迎え入れていらっしゃいました。子供キャンプでは、アイドル(???)的存在で、今は亡き神蔵さんとスキンヘッドの頭を山に見立て、木の生えていない斜面がどれほど雨の流れが速いかなどと、大笑いとともに解りやすく説明されていました。また、山での作業中や沢の遡行の際には、子供たちの行動に細心の注意を払い付き添われ、見守られていました。見た目は大違い（ごめんなさい）の優しい心をお持ちの方でした。

いつでも笑いの中心にいらっしゃる方で、飲み会でのちょっと下品なブラックジョークの発信地はほとんどが黒木さんかあるいはその周辺の方々でした。それでも、黒木さん、貴方は優しく、繊細で、話上手で、タフで、時に自分に厳しく、少し(?) ロが悪く、とても魅力的な山男でした。

たくさん楽しい思い出は尽きることはありません。今、ここにいらっしゃらないことは受け入れがたいことです。頭に手拭いを巻いてひょっこりとベースに現れてくださるのではないかと思います。そして、

いろいろとお世話になりました。できることでしたら、お会いして感謝の気持ちをお伝えしたかったです。心よりご冥福をお祈りいたします。

一丁平作業

山と共に生きる

京王電鉄株式会社
広報部 企画・環境担当
杉本 優佳



一番左側が杉本さん

夏を感じさせる梅雨晴れの日、当社が電車・バス開業 100 周年を記念して植樹を行った一丁平の保全作業を高尾の森づくりの会の皆様のご協力のもと行いました。植樹地は想像以上に下草で覆われ、草刈り未経験の私はそのあまりの量に圧倒されました。鎌を使った経験がなかった私が、見よう見まねで続けること 3 時間。高尾の森づくりの会の方から「慣れてきた、手つきが良くなった」と声をかけて頂き達成感のような高揚を感じました。

印象深かったのは、森づくりの会の方が「山は同じ木ばかりでは良くなく、針葉樹、広葉樹の両方がある混合林であることが山として長生きする。」と仰っていたことです。これまで山は自然だから手を入れなくてもいいものだと思っていましたが、手を入れないと荒廃してしまうため、健康な山を維持するためには山を守り、創ることが大切だと感じました。当社が一丁平に植樹をして約 8 年。高尾の森づくりの会にご協力をいただき実施している一丁平での保全作業に参加したことにより、山を守るという"山"への想いについて気付くことができました。高尾の森づくりの会で掲げられている「多様で豊かな森の復元」という目標を私自身今後積極的に考えていきたいです。このような貴重な経験をさせていただいたことに変え感謝申し上げます。

活動記録

5/8	定例作業（新型コロナのため中止）
5/20	滋慶学園森林体験教室（新型コロナのため延期）
5/23	都有林プロジェクト（新型コロナのため中止）
5/24	上柚木公園作業（7名）
5/28～30	三宅島プロジェクト（新型コロナのため中止）
6/5	八王子市環境フェスティバル（新型コロナのため中止） 滋慶学園森林体験教室（新型コロナのため延期）
6/12	定例作業（新型コロナのため中止）
6/16	上柚木公園作業（7名）
6/19	総会
6/25	一丁平作業（6名）
6/27	都有林プロジェクト（雨天中止）
7/7	上柚木公園作業（6名）
7/10	定例作業（会員52名、法人6名）
7/17	刈払機教育（生徒9名、スタッフ4名）
7/18	滋慶学園森林体験教室（新型コロナのため秋に延期）
7/24	刈払機実践講習会（生徒7名、スタッフ2名）
7/25	都有林プロジェクト（9名）
7/31～	TAKAO599ミュージアム展示会
8/5	（新型コロナのため延期）

活動予定

8/14	定例作業（新型コロナのため中止）
8/22	都有林プロジェクト
8/23	上柚木公園作業
8/28	チェーンソー特別教育（座学）
8/29	チェーンソー特別教育（実践）
9/11	定例作業
9/25	チェーンソー特別教育（実践）
9/26	都有林プロジェクト
10/9	定例作業
10/23	チェーンソー特別教育補講 チェーンソー実践講習
10/24	京王親子森林体験スクール（1） 都有林プロジェクト

会員動向

入会：ようこそ

松村憲一さん、小林道太さん、福井雄登さん

退会：ありがとうございました

阿部純子さん、猪川 誠さん、小池哲夫さん、
瀬戸祥子さん、矢吹 清さん

クマ情報



- 情報① 5月27日 9:24
板当国有林201林班尾根筋
- 情報② 6月29日 4:39
初年度植栽地
- 情報③ 7月23日（金）10:00
小下沢山（2009年/2010年植栽地近く）

山崎（勇）さんから3件のクマ情報が寄せられました。
一人では入山されないようお願いします。

担当変更のお知らせ（9月から）

- 会計 湯川幹事→安藤会員 Eメール x-andoapico@nifty.com
 - 出納 石橋会員→小川会員 Eメール ichi3@sa3.so-net.ne.jp
- *会計（安藤会員）にはすでに引継ぎを終えています、
出納（小川会員）への引継ぎは8月末までに終え9月から変更となります。
*キッチン担当と体操担当にどなたかおねがいできませんか？

編集後記



- 東京神奈川森林管理署伊藤新署長に忙しい中ご寄稿いただいたことはうれしい限りです。コロナ過が落ち着きましたらご挨拶に伺わせていただきたいと思います。
- 総会も終え7月は新体制になり初めての定例作業で現場把握の一日となりました。力を合わせ心地よい汗を流しましょう。
- 一人でも多くの方が登場する会報誌を目指し82号は16名でした。今後ご支援をお願いします。なお次号（83号：11月予定）は、「20周年を祝う会」を掲載のため発行日を12月中旬ごろに変更する予定です。予めご了承ください。（松川）

